



 城西大学
 城西短期大学

ニュース

平成29年度
秋季学位記授与式・卒業証書授与式と入学式

自分の可能性を広げ 城西大学の 作り手の一人に

鶴ヶ島市が東京五輪のミャンマーのホストタウンに / 福居選手が銅メダルを獲得
新理事長に大正製薬取締役会長の上原明氏

目次

- 02 [ニュース] 02 02 02
自分の可能性を広げ
城西大学の作り手の一人に
平成29年度秋季学位記授与式・
卒業証書授与式と入学式
- 03 [ニュース] 03 03 03
鶴ヶ島市が
東京五輪のミャンマーのホストタウンに
オープンキャンパス
「今日の城西、明日の城西」をアピール
ユニバーシアード 福居選手が銅メダルを獲得
- 04 [ニュース] 04 04 04
新理事長に
大正製薬取締役会長の上原明氏
グローバルチャレンジ奨学金制度
- 05 [ニュース] [展覧会] 05 05 05
チェコ首相に名誉博士号を贈呈
ブダペスト商科大学が表敬訪問
「王希奇展 一九四六」
- 06 [ニュース] 06 06 06
本学薬学分野の成果が本に
第2食堂がリニューアルオープン
- 07 [シリーズ]先輩訪問 07 07 07
自転車プロロードレースチーム
「那須ブラーゼン」会長 前田幸雄さん
- 08 [シリーズ]学生互版ワイド 08 08 08
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより] 10 10 10
[エリア紹介]
- 11 鶴ヶ島市 第32回 鶴ヶ島産業まつり
毛呂山町 第24回 毛呂山町産業まつり
東武線沿線情報
モバイルスタンプウォークに参加しよう!!

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
3年ぶりの同日開催とな
った秋季の卒業式と入学
式。好天に恵まれた9月20
日、36人の留学生がキャン
パスを後にし、新たに50人の留学生を迎
えました。中国、韓国、ハンガリー、ポー
ランドなど6カ国からの留学生たちは緊張の
面持ちで入学式に臨みました。



ニュース

2017.9.20

自分の可能性を広げ 城西大学の 作り手の一人に

卒業式と入学式を3年ぶり同時開催

今年度の秋季学位記授与式・卒業証書授与式と入学式は2017年9月20日、清光ホールで執り行われました。城西を巣立ったのは留学生36人を含む96人。新たに城西の仲間入りをしたのは、日本人大学院生と中国、韓国、ハンガリー、ポーランド、ベトナム、スリランカの6カ国からの留学生50人の計51人。式典の簡素化を目的に3年ぶりに卒業式と入学式が同日開催となりました。



白幡晶学長から学位記を受ける学生代表

授与式では3人の博士のほか、学士、別科の代表者に白幡晶学長から学位記や卒業証書が手渡されました。また入学式では学部や別科別に入学者の紹介がありました。

白幡学長は告辞で卒業生に向けて「皆さんが、今後はいろいろな場面で、これから大きく変わろうとする城西大学の作り手の一人になっていただくことを心から願っています」と呼びかけ、新入生に対しては「城西大学の様々な地域活動を通して、留学中にかかわる人々の生き方を学び、自分の可能性を広げていただきたい」と言葉をかけました。

また、小野元之理事長特別補佐は祝辞で、新しい理事長に大正製薬ホールディングスの上原明代表取締役社長が就任したことを紹介。「新たなステージに向け新たな歩みを進めております。新理事長就任を機に教育研究の環境整備をさらに推進してまいります」と述べました。



宣誓する曾広毅さん

駐日ハンガリー大使館のユハース・ギョルギ参事官らの来賓祝辞に続き、卒業生を代表して三藤瑠莉さん(薬学部薬学科)が「城西大学の卒業生であることに誇りを持ち、在学中に学んだことを社会貢献に最大限生かしていきたい」と答辞を述べました。また、新入生



答辞を述べる三藤瑠莉さん

を代表して中国・華南農業大学からの留学生、曾広毅さん(現代政策学部)が「城西大学と私たちの国々が、ますます強い絆で結ばれるよう、私たち留学生が懸け橋となれるよう努力していきたい」と誓いの言葉を述べました。

ニュース

2017.7.11

ホストタウン登録

鶴ヶ島市が東京五輪の ミャンマーのホストタウンに

2020年の東京五輪・パラリンピックで、鶴ヶ島市がミャンマーの「ホストタウン」として登録されました。2017年7月11日、藤縄善朗市長やトゥレイン・



会見で挨拶する白幡学長

ズイン駐日大使、施設提供などで連携協力している本学の白幡晶学長らが記者会見して明らかにしました。今後、ミャンマー選手が本学の総合グラウンドなどで強化合宿や大会直前合宿を行うほか、市民との交流イベントなどを通じて友好を深めます。

ホストタウンは、大会参加国・地域と登録市町村の交流を支援する国の事業で、事前合宿や交流事業などを行う際に国から費用補助を受けることができます。会見で、白幡学長は「市の活動に学生や教職員も参加させていただき、ミャンマーと日本、ミャンマーと大学との交流促進に貢献したい。学生が世界に目を向ける機会にしたい」と述べました。また、ズイン大使は「スポーツ施設を提供していただき感謝しています。施設のレベルは高く、選手たちに大いに役立ちます」と語りました。会見には、ジョー君とコマちゃんも出席、歓迎ムードの盛り上げに一役買いました。

9月19日には、キックオフイベントが市役所ロビーで開かれました。お昼休みを利用、市民や職員約100人が集まりました。藤縄市長の挨拶に続き、市のミャンマー交流大使を務める本学のティティレイ客員教授が歴史や文化、スポーツなどを通してミャンマーを紹介。現代政策学部で学んでいるミャンマーからの留学生、タン・トウダー・ウインさん=写真右=とウイン・スエー・ズイン=同左=さんが、

ニュース

第29回ユニバーシアード 2017.8.23~28

福居選手が銅メダルを獲得

ハーフマラソン団体でも3大会連続の金メダル



8月23~28日に台湾の台北市で大学生のスポーツ祭典・第29回ユニバーシアード競技大会が開かれました。本学からは男子400mハードルに陸上競技部主将の鍛冶木

水かけ祭りで踊るとい民族舞踊を披露してイベントに花を添えました。



民俗舞踊を披露するミャンマーからの留学生

オープンキャンパス特別企画 2017.7.29~8.29

「今日の城西、明日の城西」をアピール チャレンジする場・可能性を広げる場を約束

オープンキャンパスの夏休み特別企画として、白幡晶学長が清光ホールで「城西大学学長が語る 今日の城西、明日の城西」と題してのミニ講演で、高校生や保護者に城西大学をアピールしました。

特別企画は7月29日のオープンキャンパスから始まりました。夏休み4回目となった8月29日のオープンキャンパスで、白幡学長は多くの高校生や保護者を前に「知識をどう使うか、意味をどう人に伝えるかが大事な時代になってきました。大学でも知識の使い方を訓練する授業が増えてきています」と指摘したうえで、「私たちはいい先生をたくさん揃えて、知識の使い方を訓練し、皆さんがチャレンジする場を提供して皆さんの可能性を広げることに全力を挙げることを約束したい」と述べました。

白幡学長はこの後、経営学部のゼミによるローカルヒーローや医療栄養学科によるゆずゼリーなどの取り組みをはじめ、中欧諸国との交流、男女駅伝部などの部活など城西大学の特長を紹介＝写真。「本日は大学を主体的に味わうというチャレンジをしてください」と呼びかけました。



峻選手(経営学部4年)と女子ハーフマラソンに女子駅伝部主将の福居紗希選手(現代政策学部4年)が出場。福居選手が1時間14分37秒で見事、銅メダルを獲得しました＝写真。女子ハーフマラソン団体では3大会連続の金メダルを獲得し、日本のメダル獲得に貢献しました。

レース序盤から福居選手を含む日本勢が集団を引っ張る形となり、積極的なレース展開となりました。福居選手は「団体優勝を第一の目標としていたので、前半は日本選手全員で先頭を引っ張っていくという走りを心がけていた。後半の勝負どころで1位と2位に離されてしまい、力不足だった」と悔しさにもじませましたが、駅伝シーズンに向けて期待の持てるレースともなりました。【城西大学スポーツ記者・高桑霞美】

ニュース



新理事長を選任 2017.9.11

新理事長に 大正製薬取締役会長の 上原 明氏

学校法人は9月8日の理事会で、新理事長に理事・評議員の大正製薬取締役会長、上原明氏＝写真＝を選任しました。9月11日付で任期は4年。

上原新理事長は1941年、東京都生まれ。大正製薬代表取締役社長などを経て、現在、大正製薬ホールディングスの代表取締役社長もお務めです。1979年から本学の理事・評議員を務めていただいていた。上原新理事長の就任のご挨拶は以下の通り(要旨)。

「私が、義祖父上原正吉、父堀田庄三より聞いておりました水田三喜男先生は、『日本の将来を背負ってたつような気骨を持った人材を育てる教育こそ最も重要である』というお考えを持ち、人の意見によく耳を傾け、謙虚且つ人を温かく包むお人柄であられたとのことでした。私も創立者の建学の精神を大切に守り、大学の発展に全力を尽くす所存です」

不適切支出で水田宗子理事を解任

また同日の理事会では、水田宗子前理事長時代の不明瞭な会計処理について調査を依頼していた外部委員による「会計調査委員会」の報告があり、これを受けて理事会は水田理事を解任しました。

報告書は、①水田清子名誉理事長の就任時から死去までの報酬(功労金含む)2億398万円②名誉理事長への退職金1億6800

万円③死去後に払われた退職金(弔慰金)3000万円④昨年8月のアメリカ渡航費185万円⑤一昨年5月の飲食費46万円——について、理事会の決議や予算措置がないなどとして不適切な支出と認定しました。

報告を受けて、小野元之理事長代理(当時)や白幡晶学長、杉林堅次城西国際大学学長らが文部科学省で記者会見しました。小野理事長代理は「法律の専門家と相談しながら返還請求などを検討していきたい」と説明。「理事会のチェック機能が弱かったのは事実。こうしたことが起きたことは誠に申し訳ないことで、深く反省し、お詫び申し上げなければいけない。ガバナンスとコンプライアンスをしっかり実施し、教員や学生の教育・研究を大事にする大学に生まれ変わり、世間から信頼される城西大学にしていきたい」と述べました。



記者会見する小野理事長代理(当時)ら

新奨学金制度

グローバルチャレンジ奨学金制度 世界視野で考え行動できる人材を育成 2018年4月入学者から

グローバル人材の育成を目的とした「グローバルチャレンジ奨学金制度」ができました。海外留学や海外研修制度、外国人留学生との交流など本学独自の国際教育を通じて世界を体験し、そこで培われたグローバルな視野で物事を考え行動できる人材の育成を目的にしたもので、2018年4月入学者から対象になります。

グローバルチャレンジ奨学生としての自覚と広い視野を持ち自己研鑽に努めるほか、語学力のさらなる向上を図るとともに、城西大学海外教育プログラム(JEAP)短期語学研修や国際交流活動などへ積極的に参加協力するのが、奨学生の義務。奨学金は30万円で採用者は33人となっています。

特典としては、JEAP短期語学研修(アメリカ、カナダ、オーストラリア、マレーシアなど)参加費の一部助成を受けることができるほか、本学で実施するTOEICテストの初年度受験料の免除があります。

ニュース

名誉博士号贈呈 2017.6.28

チェコ首相に名誉博士号を贈呈 「チェコ共和国の視点からみる欧州の未来」と 題して記念講演

本学は6月28日、東京紀尾井町キャンパスで初来日したチェコ共和国のボフスラフ・ソボトカ首相に名誉博士号を贈呈しました。ソボトカ首相は、チェコ・日本国交回復60周年を記念して来日。多忙なスケジュールの合間を縫って、中欧ヨーロッパの大学との交流に力を注いでいる本学を訪問されました。

授与式で白幡晶学長は、これまでの本学とチェコとの交流の歩みに触れ、「こうした地道な交流の中で、ソボトカ首相に名誉博士号を授与できますことを誠に光栄に存じます」と式辞を述べました。

ソボトカ首相は名誉博士号に対する感謝の言葉を述べた後、「チェコ共和国の視点からみる欧州の未来」と題して記念講演。チェコ語で質問した本学学生の発音にびっくりしたような表情を浮かべたソボトカ首相は、留学生らからの質問にも丁寧に答えになりました。講演後には、チェコ語を学んでいる学生や中欧からの留学生との記念撮影にも応じていました。



名誉博士号を受けたソボトカ首相(中央)。その右はドゥブ大使

展覧会

王希奇展 2017.9.28~10.5

「王希奇展 一九四六」 墨絵と油絵の融合 世界的な歴史画家・王氏

墨絵と油絵の融合という独自のスタイルを確立した世界的な歴史画家、王希奇氏の展覧会「王希奇展 一九四六」が9月28日から10月5日まで、東京都港区の東京美術倶楽部で開かれました。法人本部が主催し、オープニングの28日には東京紀尾井町キャンパス3号棟で記念シンポジウムも開かれました。

王氏は、本学が学術交流協定を締結している瀋陽の魯迅美術学院に勤め、長年にわたり中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト契約画家として活躍しています。このほど3年間半という長い年月をかけて、縦3m、横20mの巨大な作品「一九四六」を完成させました。1946年、105万人余にのぼる葫蘆島からの残留日本人の大送還をテーマとした大作です。

表敬訪問 2017.6.13

ブダペスト商科大学が表敬訪問 学生・教員の相互交流と一層の協力関係を確認

学術協力提携を結んでいるハンガリーのブダペスト商科大学のバラシユ・ヘイドリッヒ学長一行が6月13日、東京・紀尾井町の法人本部を表敬訪問しました。

一行には、ノルベルト・バラノヴィチ駐日ハンガリー大使も同行。本学からは、小野元之理事長代理(当時)のほか、白幡晶学長、杉林堅次城西国際大学学長や関係学部の学部長らが会談に参加しました。

冒頭、小野理事長代理が「ブダペスト商科大学は2007年1月に、ハンガリーの大学として、初めて本学と学術協力提携を結んだ先であり、過去10年間に我々の交流は大きく発展し、本学とハンガリーの関係は、日本でも有数の内容と規模に育ちました」と歓迎の挨拶。ヘイドリッヒ学長が、歓迎に対する感謝の言葉を述べました。この日の意見交換で、学生や教員の相互交流などを通じて一層の協力関係を深めていくことを確認しました。



全員による記念撮影



テープカットをする小野理事長特別補佐(左から4人目)や王氏(同3人目)ら

今回の特別展では、新作の「一九四六 見守る海」をはじめ、日本統治時代の大连や瀋陽の歴史的建造物を描いた作品も展示。小野元之理事長特別補佐は挨拶で「中国と日本を結ぶ、歴史に残る超大作の数々をご覧いただき、日中の交流に思いを馳せていただきたい」と挨拶。葫蘆島近くの出身で小さいころから引き揚げの話を知っていたという王氏は「遺骨を抱いた子どもたちの写真にショックを受けた。当時は敵国の子どもだったが、本当に敵だったのだろうか」と疑問を持ったのが、書こうと思ったきっかけ。城西大学のおかげで、日本で展覧会が開けることになってうれしい」と話していました。

ニュース

2017.9.11

第2食堂がリニューアルオープン

木目張りの床にカラフルな調度で明るい雰囲気に

第2食堂がリニューアルし、9月11日からオープンしました。第2食堂棟は1987年8月に竣工。1974年4月に竣工した第1食堂棟が50周年記念事業によって2015年4月にJUカフェとして生まれ変わったのを受けて、老朽化が進んでいた第2食堂も改修、整備が行われました。床に木目張りシートを敷き詰めたほか、テーブル、イスも新調。イスは赤、白、茶、黒などカラフルになり、LED照明と相まって明るい雰囲気に変わりました。席数は地下1階が322席、1階が295席。改修を手掛けた管財課と営繕課では「新しい食堂で、おいしいものをたくさん食べてほしい」と話しています。



新・第2食堂。地下1階322席・1階295席

共著出版

本学薬学分野の成果が本に

本学薬科学科教授で城西国際大学杉林堅次学長が共著



「薬剤師・管理栄養士のための今日からはじめる薬局栄養指導」(日経メディカル開発)が出版されました。著者の一人である本学薬科学科教授で城西国際大学杉林堅次学長に寄稿していただきました。

「薬剤師・管理栄養士のための今日からはじめる薬局栄養指導」

城西大学薬学部は薬剤師を養成する薬学科と管理栄養士を養成する医療栄養学科という2つのProfessional Schoolを擁し、かつ薬科学科といういわゆるcollegeを擁す我が国では唯一かつ最大の薬学部である。また、本学部にはさらに4専攻を有する薬学研究科が連なって学生に幅広い進路を提供している。Interdisciplinary sciencesの重要性が叫ばれる今だからこそ、学生はもちろん若い教員にもこの特長を有効に活用し、勉学に励み今後のキャリア形成に生かしてもらいたいものである。

医療栄養学科の後援で2006年から「薬局管理栄養士研究会」が開催されてきたが、この研究会開始から10年を経て、やはり薬剤師と管理栄養士の協業の大切さをさらに啓発すべきであるという信念のもと本書の企画がスタートした。本書は前述した研究会の常連メンバーを中心に学内外から多くの方の共同執筆によって上梓されることになったが、自ら管理栄養士でありながら他大の薬学部勤務を経由して本学医療栄養学科の准教授となられ、今年から薬学研究科栄養政策管理分野の中心教員として活躍される堀由美子先生、本学薬学部と埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学と多職種連携教育(IPE)の中心メンバー、そして薬学研究科医薬政策管理分野で活躍されている薬学科准教授の細谷治先生、さらに本学を卒業し管理栄養士実務家としてのキャリアを積み本学に戻ってこられた加藤勇太助教に多くのページをお任せした。

未病対策としての栄養、疾患時の栄養は薬物治療に比べて勝るとも劣らない重要要素である。市中の薬局等で働いておられる薬剤師や管理栄養士、さらにはこれらの卵である学生、特に本学の薬学部生・薬学研究科大学院生にはぜひ一読をお願いする次第である。

シリーズ

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は自転車レースなどによって那須地区の活性化に尽力している那須高原オールスポーツアソシエーション副会長の前田幸雄さん(57)を栃木県大田原市に訪ねました。



中途半端で投げ出さない 人生をどう生きるかに こだわってほしい

自転車プロロードレースチーム「那須ブラーゼン」会長 前田 幸雄さん
那須高原オールスポーツアソシエーション副会長 (1982年 経済学部卒)

——学生時代に打ち込んだことは何ですか。

「小学生の時から写真を撮っていて、大学は写真部に入りました。1年生でしたが、先輩から言われて文化部連合会の書記長をやられて、部長になった3年生では文化部連合会の会長、体育会を含めた課外活動協議会の議長もやりました。礼儀正しい体育会系の方が温和で、私の方が強面で体育会のような感じでした。部活では何と言っても高麗祭が楽しく、畳一枚ほどの作品を仕上げたり、看板を作ったり、30人ほどの部員でわいわいやっていました」

——写真家、不動産業、自転車のウェアショップ経営、自転車のプロチームの会長と様々な肩書をお持ちです。

「何でも屋、なんです。中学に入るときに父親が農業の他にアパート経営を始めました。それで将来は不動産関係に進もうと思い、大学は経営を選び、卒業した年に宅地建物取引士の資格を取りました。不動産管理の仕事しながら、デザイン事務所ではカメラマン。中学時代は今で言えば、撮り鉄。人物、風景、山岳写真も手掛け、地元の新聞社から写真集を出したり、ニューヨークで個展を開いたこともあります」

——自転車との出会いは?

「本格的に始めたのは45歳の時です。標高1400mを超える那須高原の峠で写真を撮っていた時に自転車で上ってきた人がいたんです。変わった人もいるもんだと興味を持って、その後、自分でも自転車で峠まで行ってみました。当然、キツイ。休み休み行っても、登山と同じで歩みさえやめなければ到達するわけです。爽快感がありました。峠で証拠写真の記念撮影をしたところが、帰りでカメラを無くしてしまう。それで証拠写真を撮りに1週間後にまた行ったら、すごく楽になっていて……。45歳になってもこんなに体が目覚めるんだと驚いて、はまってしまいました。52歳の時には、佐渡国際トライアスロン大会のリレータイプに50代の友人たちと出て150チーム中7位に入ったこともあります」

——企画・立案された自転車レース「那須高原ロングライド」の最初の立ち上げは2011年でした。

「イベント会社の友人と那須になんとかサイクルイベントをと、7月実施に向けて1月から準備を始めたところに東日本大震災が発生。中止との声も出ましたが、『今やらなかったら、那須はダメになる』との思いで強行しました。かっこいいウェアで汗を流して坂道を上る選手たちの姿が復興のイメージと重なったのか、地域の人たちや事業主さんたちが、自転車は面白そうだ目を向けてくれました。7回目の今年は3000人が参加、日本で4番目の規模の大会になりました。事業主さんには専用のスタンドを設置してもらったり、サイクルマップを作ったり、パンク修理などをサポートしてもらった。全国初の「サイクルレスキュータクシー」も発案、誕生するなど、地元の協力もあって那須エリアは自転車の先進地と言われるようになりました。自転車はコミュニケーション、健康、レジャーのツールとして優れています。城西大学でもぜひ自転車部をつくってほしいと思います(笑)」

——好きな言葉はありますか。

「『こだわり』です。写真で言えば、作品として発表するにはもっとよくしようというこだわりが必要です。学生の時は、印刷会社でアルバイトをして現像代を稼いで、こだわって作品と向き合ってきました。城西大生の皆さんにも、こだわってほしいと思います。これからの人生をどう生きるか考えられる時期に、中途半端なことをしないで、こだわってほしいですね。とにかく中途半端で投げ出さないでほしいです」

■那須高原ロングライド

2011年から始まった那須高原ロングライドは、大きな波及効果をもたらしている。2012年には自転車のプロチーム「那須ブラーゼン」が誕生(初代社長)。自転車ロードレース「Jプロツアー」の年間22レースのうち、7レースが栃木県で開かれている。昨年は矢板市と大田原市、那須町による県北サイクルツーリズム推進協議会が発足。「那須高原オールスポーツアソシエーション」(NASA)には約250人のボランティアが登録して、大会やイベントの下支えをしている。
〒324-0047 栃木県大田原市美原1-13-4 TEL:0287-53-7040

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

野球を緩く楽しくやりたい人、大歓迎

薬学部軟式野球サークル 代表 力武航大さん(薬学部3年)

薬学部軟式野球サークルは、薬学部と他学部の野球愛好家が集う。愛称は「薬軟」だ。男女比7対2で、高校野球経験者やソフトボール経験者が多いが、未経験者にも門を開いている。活動は1カ月に2回程度、水曜日の午後5時から8時までだが、人数が少なく紅白戦が出来ない日は、キャッチボールやフリー打撃、ノックを中心とした練習を行っている。日程が合えば、他大学と練習試合を行ってチームの強化をしている。

代表の力武航大さん(薬学部3年)は「厳しい環境の中の野球ではなく、緩く楽しい環境の中で野球がしたくて入会した。今は人数が少ない



左から4人目が代表の力武航大さん

ので、私のように野球を楽しくやりたい人、体を動かしたい人は大歓迎です」と語る。これからスポーツの秋。緩く野球がしたい人は「薬軟」のドアを叩いてみてはどうだろう。

(取材:編集局一同)

体育祭 実行委員会 球技大会・体育祭を通じて親睦を



体育祭の企画、運営に当たる体育祭実行委員会には現在、1年生18人、4年生4人が参加している。残念ながら、ここ3年間は、体育祭が開かれていないが、メンバーは球技大会の開催を手始めに体育祭の復活を目指している。

過去の体育祭では、スウェーデンリレーや男女別早食い競争、4人1組で行う障害物リレー、女性限定の棒引き、全員参加の宝探しなどの競技をやっていたそう。豪華な景品が出た宝探しなどが人気の種目だったという。

他団体との関わりはこれまで、代表者会議以外はほとんどなかったが、今後開催を計画している球技大会やその後に目指す体育祭を通じて親睦を深めていきたいとしている。1年生が多く、若い委員から体育祭の斬新なアイデアが出てくるかもしれない。体育祭実行委員会にエールを送りたい。

(取材:渉外局一同)

「簿記検定の勉強を通して人間形成」

蛭川簿記塾 部長 斉藤大河さん(経営学部3年)

蛭川簿記塾は、経営学部の蛭川幹夫教授の指導の下、「日商簿記検定1級の勉強を通して、人間形成を図る」を目標に38人で活動をしている。活動日は目指している級ごとに異なり、現在1級は木曜1・5限、2級は月・金曜1限、3級は月曜4限と火曜5限。3、4年生のみですが、水曜5限と木曜2限には英会話活動も行っている。

各級ごとに分かれ、プレゼンテーション活動による簿記の学習がある。部長の斉藤大河さん(経営学部3年)は「プレゼン活動はプレゼン能力の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上も見込める」と話す。学習面以外でも、オープンキャンパスのスタッフや会計入門の監督・補講の補佐役なども積極的に行っている。1~4年生と一緒に活動しているため、アットホーム

な雰囲気だ。本格的に簿記の勉強をしてみたい人は、足を運んでみたらどうだろう。

(取材:財務局一同)



2列目右端が代表の斉藤大河さん

「広場で踊る貴重な経験はここでしかできません」

SHOELACE 部長 前田恵吾さん(理学部3年)

高麗祭や文化部連合会が主催しているイベントなどで、様々なジャンルのダンスを披露しているのが、ダンスサークルのSHOELACEだ。「靴紐(shoelace)まで意識して踊れるダンサーになれるように」という意味で付けられた名前だそう。

80人が所属しており、ロックやヒップホップ、ブレイク、ジャズなどのほかに、フリースタイルバスケットボールやフリースタイルフットボールというボールを使ったパフォーマンスも手掛けている。大学イベントでは、目玉と言っても過言ではないほど迫力のあるダンスを披露してくれるが、ダンスの経験者はわずか25人だという。

目標は「楽しく踊ること」。その言葉の通り、いつも生き生きと踊っているのだから、見る者を楽しい気持ちにさせてくれる。部長の前田恵吾さん(理学部3年)は「ダンスは誰でも楽しく踊れます。イベントで、クラブハウスや文化ホール、ショッピングモールの広場で踊るという貴重な経験はここでしかできません」と部の魅力を語る。SHOELACEのしびれるような格好良いダンスをぜひご覧あれ。

(取材:放送局一同)



前列中央が部長の前田恵吾さん

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています
jukoho1@gmail.com

図書館だより

<伝えるということ>講演会を開催

5月24日、17号館202教室にて、「出版社での経験をもとに伝えるということについて」と題して株式会社読書人の代表取締役社長、黒木重昭氏にご講演いただきました=写真。経営学部の門脇先生の「キャリアデザインI」授業とのコラボレーションやその他の学生、教職員など152人が

参加しました。講演では、読書の大切さをひとりでも多くの人に伝えるために活動をしていること、仕事上の困難な状況をポジティブシンキングすることで成功に変えてきたことを、ご自身の体験を交えて熱く語っていただきました。



企画展示「学生アドバイザーレポート支援活動」

図書館学生アドバイザー活動のひとつとして、5月31日より1階カウンター前にて「学生アドバイザーレポート支援活動」展示を行いました。この展示では各

アドバイザーが実際に自分の論文・レポート作成に役立てた資料をポップとともに紹介しました=図。



第12回ライブラリーラウンジ「ゆるほん3」開催

6月13日、図書館6階グループ学習室6Bにて、学生アドバイザー主催のライブラリーラウンジ「ひとりじゃない読書への誘い：ゆるくほんでおしゃべり、しませんか3」（通称ゆるほん）を開催

しました。当日は学生、院生に加え城西大学の元教員など14人が学部や年齢の差を越え、お互いの本のことや読後感などを紹介して楽しく交流しました=写真。

日高市立図書館ビブリオバトルに城西大学の学生が参加



7月30日に日高市立図書館主催の「ビブリオバトル2017夏の陣」が開催されました。城西大学からは第2部「大学生の部」に大学院薬学研究科博士課程2年の大野由依さん=写真右から2人目=が、朝井まかて著「ちゃんちゃら」で、薬学部薬学科5年の高橋準一郎さん=写真右端=が、万城目学著の『とっぴんばらりの風太郎』で参加し、約30人の観客を前に紹介本の魅力を存分に発表しました。地域の行事を通して出場者の高校生・他大学の学生や地域の方々と交流を持つ良い機会となりました。

※城西大学水田記念図書館は日高市立図書館と地域協力図書館として提携しています

エリア紹介

鶴ヶ島市

第32回 鶴ヶ島産業まつり

11月11日(土)と12日(日)に鶴ヶ島市運動公園で「第32回鶴ヶ島産業まつり」を開催します。産業まつりは、4万人以上

が訪れる鶴ヶ島市で最も大きなお祭り。市内事業者を中心に約100ブースが出店します。様々なグルメのほか、農産物の直売や市内企業による商品紹介、バザー、体験コーナーなど盛り沢山の内容です=写真。

今年はステージも充実。11日の音楽ステージでは、アマチュアやプロのロックバンド演奏、演歌、和太鼓、吹奏楽と、様々なジャンルの演奏が楽しめます。また、ステージの



おどりは鶴ヶ島市出身のロックバンド「鶴」。結成15周年を記念した無料凱旋ライブで会場を盛り上げます。

12日のダンスステージには500人を超える出演者が集合。産業まつり史上最大のダンスステージが繰り広げられます。また、恒例となった

「光頭つるつる相撲」は今年も開催。会場を笑いで包みます。会場までは、鶴ヶ島市役所より無料シャトルバスが運行。是非ご来場ください。

毛呂山町

第24回毛呂山町産業まつり

「第24回毛呂山町産業まつり」を11月18日(土)と19日(日)に開催します。町の特産品販売や地元商店による出店、関係団体によるステージイベントなど、年齢を問わず毛呂山町を一度に楽しめるイベントです=写真。

新鮮な農畜産物の販売や地元の飲食店による出店、各コーナーのイベントで、毛呂山町を「観て・食べて・買って」満喫してください。会場は町総合公園(毛呂山町大谷木443)、開催時間は11月18日が午前10時から



午後4時まで、19日は午前10時から午後3時までです。

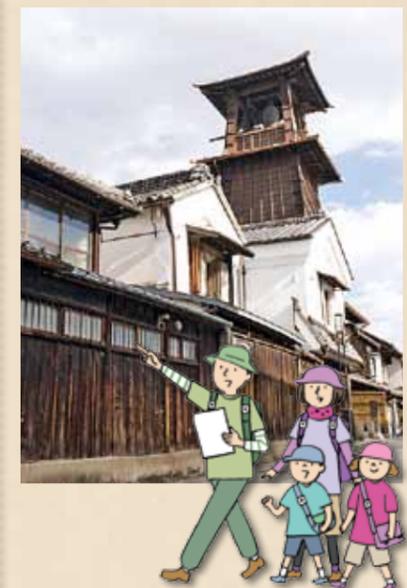
無料駐車場あり、シャトルバスの運行も予定しています。お問い合わせは、産業まつり実行委員会事務局(毛呂山町役場産業振興課内)☎049-295-2112内線213・214へご連絡ください。

東武線沿線情報

モバイルスタンプウォークに参加しよう!!

東武鉄道では、東急電鉄、散歩の達人との合同企画「モバイルスタンプウォーク」を実施しております。11月21日~12月20日は東武東上線の川越がウォーキングコースになります。風情ある川越を食歩歩きながらスタンプを集めて楽しみませんか。

さらにスタンプを集めると抽選で東武鉄道オリジナルグッズなどプレゼントもあります。スポーツの秋、食欲の秋をモバイルスタンプウォークで満喫しよう!!



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
http://www.josai.ac.jp